

# 視 察 ・ 研 修 等 報 告 書【上巻】

令和5年11月 日

北上市議会議長 様

北上市議会 北上まほろばクラブ  
代表 三 宅 靖

次の 視察 ・ **研修** ・ 活動 について結果を報告します。

期間（期日）	令和5年11月9日（木） 10:30～16:00
視 察 先 視 察 内 容 ま た は 研 修 事 項	トップランナーに学ぶ 受賞事例研修会 於：オンライン受講
参 加 者	北上まほろばクラブ：三宅 靖、平野 明紀、佐々木 護

## 【内容】

「マニフェスト大賞 受賞団体の事例」
■■躍進賞 優秀賞■■
■ 1. 一関市議会
『議会・議員活動の「見える化」を進める取組～市民目線からの議会改革へ～』
○取り組み概要とポイント
・どんな人が議員なのか、議会ってどんなことを議論しているのか？⇒市民にとって議会は近くて遠い存在。
・市民に関心をもっていただける議会にしていくため、以下の取組に着手した。
①市議会だよりのリニューアル
・「手にとってみたくなる広報誌」をテーマに紙面を大幅にリニューアルした。
・表紙は、地元若手アーティストによるイラストデザインに切り替え、紙面記事はレイアウトやデザインを重視。
・議案審議や一般質問の記事についても要点の記載とし、わかりやすい言葉で表現した。
・特集記事を設け、市内で活躍する人物へのインタビューを掲載し、議会と市民がつながるツールであることを印象付ける工夫をした。全面カラーにしたが、頁数を減らして予算増額無しで実施。また、広聴広報委員会を常任委員会化した。
②議会モニターとの直接対話
・令和3年度に議会モニターを設置し、令和4年度からはモニターと議員が直接対話する「意見交換会」を開催した。

- ・意見交換会で、モニターから出された「一般質問の時間制限、質問項目の重複を避ける手法」、「委員会の中継」といった意見については、議会改革項目に位置付け、担当する委員会で調査を行っている。
- ・議員が当たり前と思っている議会運営についても、市民にとっては、複雑で、わかりにくいものになっていることも多々ある。意見交換会を通じ、モニター目線（市民感覚）からの素朴な意見が、議会改革に直接つながるよう流れを構築している。

### ③大学への研究依頼

- ・岩手大学が主催する地域課題の解決に向けた研究（地域課題解決プログラム）のテーマとして「地方議会の議員活動の見える化および議員のなり手確保」を申請し採択された。
- ・学生と議員のオンラインでの意見交換の実施や、議長が大学の授業に出席して講話を行うなど、議会に対する学生の理解を深める取組を実施してきた。今後、大学と市議会が連携し、課題解決に向けたブレクスルーを生み出す研究を進めていく。

### ④市民と議員の懇談会

- ・市民との懇談会を毎年開催し、議会の活動報告を行うとともに、地域課題や議会への要望について、直接市民から意見を伺っている。

## 議会広報のリニューアル

表紙は、地元若手アーティストのイラストを採用





に問い、議員体験をしてもらう模擬議会「ゼミナール議会」を開催。

- ・参加者が模擬議員となって、町長や町執行部へ一般質問により政策提言を行った。
- ・実施するにあたって、議員が一般質問の仕方を教える機会も設けた。
- ・模擬議会では、代表6名が議場で、本番と同じ条件の中、町長をはじめ町執行部への一般質問の実施と決議文を議決し、議員の仕事を体験。

#### ④想いを伝える広報活動

- ・活動を広く周知させるため、プロジェクトの取り組みをまとめた広報誌（8ページ）を作成し、町内全世帯へ配布。また、議会活動とプロジェクトの取り組みを町内6カ所で議会報告会を開催し、活動の報告も実施。

～プロジェクトのその後～

- ・プロジェクトの実施により、なり手不足解消のために議員報酬を増額する動きが進み、この議論を町民に報告し、一定の理解を得られたことから、議員報酬6万円増額が令和5年9月定例会議において実現。

### ■ 3. 枚方市議会（大阪府枚方市）

『選挙のときだけじゃありません！ より市民に身近な市議会をめざして』

#### ○取り組み概要とポイント

- ・令和4年以降、「見やすく、細かいところに行き届いた情報発信・共有」に向けた様々な取組を行っている。

#### A. 議会広報誌

- ・枚方市議会報は年6回発行（1回当たり約19万部）し、市内全戸・事業所に配布するプッシュ型ツールで、A4判やタブロイド判の議会広報紙が主流の中、ブランケット判（日刊紙大）である。その紙面サイズも活かしつつ、以下の取組を実施。

#### (1)連載もの

##### ①ぎかい探Q（プレゼント付きクイズコーナー）

- ・令和4年2月号から、議会用語を中心としたクロスワードパズル等のクイズを掲載し、この間約1,400件の応募を得た。応募時の感想では、「クイズコーナーをきっかけに議会報を読み始めた」、「興味がわくよう工夫され、以前より身近に感じる」などの声が多数あった。

##### ②その他

- ・「季節風」（昭和56年～市内の季節感あふれる写真）、「あのひと このひと」（平成20年～市にゆかりある人物紹介）等。

#### (2)紙面の工夫・改善

##### ①ぎかい探Q応募時の意見等を反映した取組

- ・令和4年以降、1面・最終面のカラー化、議案等の図説、各面の用語解説、見出しの工夫など、見やすく伝わりやすい見せ方へ紙面改革を継続的に実施している。

##### ②その他

- ・一般質問は見開きで全議員分を掲載（約30人・質問時の顔写真も）。また、紙面各所にプル型情報



(ホームページや動画)へいざなう二次元コードを掲載している。

## 2 取組内容はこんな感じです

- ▶ (1)枚方市議会報（議会広報紙）へのクイズコーナー掲載

クイズの第一弾は  
議会用語いっぱい  
自作クロスワードパズル!

手に取っていただくきっかけに…  
そして、  
クイズへの回答とともに紙面への  
意見も募集! → 紙面を改善!

## 2 取組内容はこんな感じです

- ▶ (2)クイズコーナー（ぎかい探Q）に連動してメッセージ動画を作成

1人10秒! 全議員が動画で自己紹介!

再観VTR  
議会報編集委員会  
一層分かりやすい紙面になると想われます。

令和4年の市議会の取組  
おまけ付  
3:30

【最終回】枚方市議会報第341号

クイズ当選者へのメッセージ動画を重ね…  
令和5年度から、議会全体のプロモーション動画へと取組を拡充!

※これらのアイデアは、議員だけではなく市民からの提案もいただいて実施。

## B. 市議会ホームページ

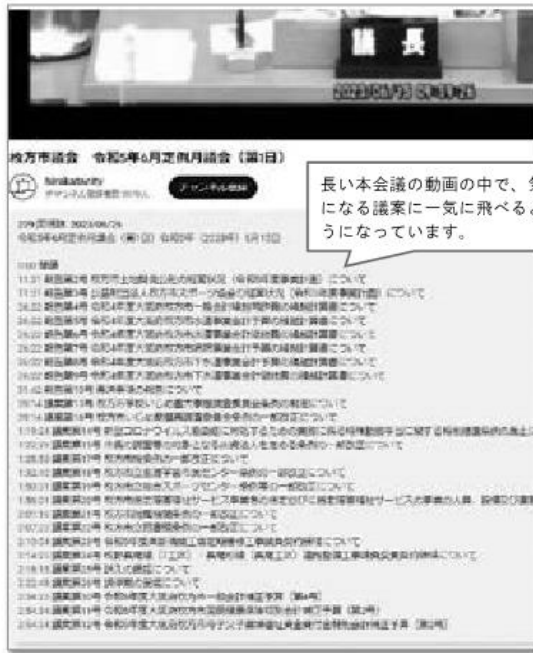
- ・令和4年5月から「議会資料室」を設け、議案書等の各種資料を掲載している他、議案等の審議日程の事前掲載、議決結果の即日掲載や、政務活動費の議員ごとの収支報告書（領収書含む）を公開

## C. 動画配信 (YouTube)

- ・令和5年4月の統一地方選後、全議員32人の人となりや垣間見、議会を身近に感じていただくべく自己紹介動画を作成した。
- ・令和4年以降、各会派の新年挨拶、ぎかい探Qプレゼント当選者メッセージ等の動画を作成した。
- ・令和5年5月からは、従来の議会報編集委員会を議会広報委員会へと名称変更し、機能を拡充した。

### ◆ 動画に係る取組例(抜粋)

#### 《本会議の録画配信 タイムスタンプ》



校方市議会 令和5年6月定例会月議会（第1日）

長い本会議の動画の中で、気になる議案に一気に飛べるようになっています。

11:31 議案第1号 校方市土地開発公社の設置状況（令和5年度事業計画）について  
11:34 議案第2号 公益財団法人校方市文化スポーツ振興財団の設置状況（令和5年度事業計画）について  
11:37 議案第3号 令和4年度入道校方市一般職1種初任給の増額計画について  
11:40 議案第4号 令和4年度入道校方市一般職2種初任給の増額計画について  
11:43 議案第5号 令和4年度入道校方市一般職3種初任給の増額計画について  
11:46 議案第6号 令和4年度入道校方市一般職4種初任給の増額計画について  
11:49 議案第7号 令和4年度入道校方市一般職5種初任給の増額計画について  
11:52 議案第8号 令和4年度入道校方市一般職6種初任給の増額計画について  
11:55 議案第9号 令和4年度入道校方市一般職7種初任給の増額計画について  
11:58 議案第10号 令和4年度入道校方市一般職8種初任給の増額計画について  
12:01 議案第11号 令和4年度入道校方市一般職9種初任給の増額計画について  
12:04 議案第12号 令和4年度入道校方市一般職10種初任給の増額計画について  
12:07 議案第13号 令和4年度入道校方市一般職11種初任給の増額計画について  
12:10 議案第14号 令和4年度入道校方市一般職12種初任給の増額計画について  
12:13 議案第15号 令和4年度入道校方市一般職13種初任給の増額計画について  
12:16 議案第16号 令和4年度入道校方市一般職14種初任給の増額計画について  
12:19 議案第17号 令和4年度入道校方市一般職15種初任給の増額計画について  
12:22 議案第18号 令和4年度入道校方市一般職16種初任給の増額計画について  
12:25 議案第19号 令和4年度入道校方市一般職17種初任給の増額計画について  
12:28 議案第20号 令和4年度入道校方市一般職18種初任給の増額計画について  
12:31 議案第21号 令和4年度入道校方市一般職19種初任給の増額計画について  
12:34 議案第22号 令和4年度入道校方市一般職20種初任給の増額計画について  
12:37 議案第23号 令和4年度入道校方市一般職21種初任給の増額計画について  
12:40 議案第24号 令和4年度入道校方市一般職22種初任給の増額計画について  
12:43 議案第25号 令和4年度入道校方市一般職23種初任給の増額計画について  
12:46 議案第26号 令和4年度入道校方市一般職24種初任給の増額計画について  
12:49 議案第27号 令和4年度入道校方市一般職25種初任給の増額計画について  
12:52 議案第28号 令和4年度入道校方市一般職26種初任給の増額計画について  
12:55 議案第29号 令和4年度入道校方市一般職27種初任給の増額計画について  
12:58 議案第30号 令和4年度入道校方市一般職28種初任給の増額計画について  
13:01 議案第31号 令和4年度入道校方市一般職29種初任給の増額計画について  
13:04 議案第32号 令和4年度入道校方市一般職30種初任給の増額計画について

#### 《配信動画のサムネイル》



一般質問 Before After

校方市議会 令和4年9月定例会月議会（第5日） 藤田幸久議員

校方市議会 令和4年12月定例会月議会（第4日） 藤田幸久議員



議員の役者ぶりも光ります！  
各種プロモーション動画

「字幕があり、議員の個性も出ていて面白かった！」「議員の生の声を聞いて親近感が湧く！」など反響多数！

令和5年 校方市議会 議員紹介動画



ここにタイムスタンプ、付いています。

「おまけ」はメイキング・NG集です。

令和4年の市議会の取組

【最終日】校方市議会報第341号（令和4年11月1日号）「ぎかい探Q」

## ■ 4. 山鹿市議会（熊本県山鹿市）

『全議員が市内の全小学校でシチズンシップ教室を開催し、

なりたい職業ベスト10入りを目指した取組』

### ○ 取り組み概要とポイント

#### 〈取り組みのきっかけ〉

- ・市民から、議会は何をしているのかよく分からない。議員の仕事が見えない。と言われていた。議会だよりの発行、議会報告会の開催、議会傍聴、YouTube 配信などで可視化していたが、さらなる取組が必要だと感じていた。また、投票率の低下や議員のなり手不足も懸念されていた。

#### 〈取り組みの目的〉

- ・市議会について知ってもらう。
- ・議員の仕事について理解してもらう。

<ul style="list-style-type: none"> <li>・選挙の意義を理解してもらう。</li> <li>・投票の大切さを分かってもらう</li> </ul>
⇒そしてなりたい職業ランキング、ベスト10入りを目指す！
〈シチズンシップ教室のプログラム〉
<ul style="list-style-type: none"> <li>・議会タブレットに作成した資料を入れ、電子黒板に写した。</li> <li>・内容は「ギカイを知ろう」</li> </ul>
議会と児童会、議員の仕事、山鹿市議会について、「 <a href="#">ポリポリ村のみんなしゅしゅぎ</a> 」「自分たちの決まりは自分たちで決めよう」「議員になったワケ」「あなたも議員になれる」
〈授業の概要〉
<ul style="list-style-type: none"> <li>・全議員が小学校（全10校）を自分で選択し、そのグループで学校との日程調整等を行う。</li> <li>・学校の希望により5年生もしくは6年生で、45分間の正規の授業に組み込んでもらった。</li> </ul>
〈成果〉
“子どもの感想から”
<ul style="list-style-type: none"> <li>・議員がどのような仕事をしているか分かった</li> <li>・実際に投票してどれだけ一票が大事か分かった。選んだ人によって未来が変わると知って絶対に投票に行こうと思った。</li> <li>・選挙をしてみてもどちらにしようか迷った。選挙は簡単ではないと思った。真剣に考えて選挙に行こうと思った。</li> </ul>
“議員への効果”
<ul style="list-style-type: none"> <li>・主体的に取り組む姿勢ができてきた。</li> <li>・ほかの議員の思いを聞くことができた。</li> <li>・新聞報道などで議会に対するイメージアップを図ることができた。</li> </ul>
〈今後の課題〉
<ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもたちとの対話の時間が取れなかったので、どう解決していくか。</li> <li>・共通の資料のみを使用したが、独自の資料を希望する場合はどうするか。</li> <li>・継続していくための仕組みをどう構築していくか。</li> <li>・中学校への対応はどうしていくか。</li> <li>・学校行事や授業の都合がうるので、日程調整は早めにとりかかる。</li> <li>・前年度受けた学年をどうするか。</li> </ul>
〈ポイント〉
<ul style="list-style-type: none"> <li>・議員全員で、市内の全小学校に出向いたので、5年生もしくは6年生の全ての児童が授業を受けたことになる。議場で行う模擬議会も大変有効だと思うが、一部の児童生徒しか体験できない。その点、このシチズンシップ教室は全ての児童が対象となる。欠席していた児童もオンラインで参加した例もあった。</li> <li>・政治を諦めないこと、民主的な意思決定ができることが大事で、それができるようになるには子どもの頃からの経験が必要である。</li> <li>・教育長と話し合いをし、教育委員会からの協力を得ていたことでスムーズに学校との連携ができた。</li> </ul>

## ■ 5. 宮崎市議会（宮崎県宮崎市）

### 『市民参加型プラットフォームを活用した広報広聴の実施について

～市民と双方向でつながる仕組みづくり～

#### ○取り組み概要とポイント

- ・議員は市民の身近な存在として、多様な声を聴き、その声を議会を通じて市政に反映することが求められている。しかし、年々市民の議会への関心は薄れ、令和5年4月の宮崎市議会議員選挙の投票率は38.34%と低く、また、新型コロナウイルス感染症の影響で人との交流が減少した。そのため、「市民の声を聴く・議論する」ための多様な議会活動が求められている状況にある。
- ・令和3年9月、民間企業2社から議会のDX化の共同開発の提案があり、当時の鈴木議長の思いとも重なり、3か月後の12月には市議会内の各党派代表からなるDXプロジェクトチームを発足するとともに、「地方議会DX実証実験・研究にかかる連携協定書」を締結し、DXを活用して市民と議会の距離をなくす全国初の仕組みづくりに着手した。
- ・市民参加型プラットフォーム「[まちだん](#)」サイトを通じて、議員プロフィールの作成や県内の学生との意見交換会の開催、議会紹介動画の制作などを行い、令和4年8月から市民向けサイトを公開し、順次動画などの配信を開始した。
- ・市民の協力を得て、アンバサダー約20名を委嘱し、情報発信やアンケートの作成など、市民と議会の架け橋として協力いただく応援体制を築いた。
- ・実証実験の結果として、サイトの登録会員が258名、訪問者数が6,379人、総閲覧回数が約4万回となった（令和4年8月5日から令和5年3月15日までの集計）。また、令和4年度に実施した議会報告会は現地参加者約130名であったが、新たにライブ配信とアーカイブ配信を導入したことで、現地参加者に比べ約8倍の視聴（ライブ配信284PV、アーカイブ779PV）を獲得することができた。
- ・市民がこの「[宮崎市議会DXみやだん](#)」を活用することで、議員との双方向のコミュニケーションが可能になり、議員は、質問や相談、アンケートを通じて、市民の多様な声を把握することができ、広報広聴機能の充実が期待できる。

#### 「まちだん」

デジタル技術で、開かれた議会を実現する仕組み







### ③オンラインのみのインターンシップ

- ・地方議員の活動（地方行政・地方政治）に関心のある大学生等が、学業を優先しながら、どこに住んでいても参加できるように、打合せ・進捗管理・一般質問一覧作成等、全てオンラインで完結できるシステム。インターンシップの最後には、Zoom等による模擬一般質問（通告書の作成・事前提出から質問・答弁まで）も実施。

## ■ 2. 横瀬町（埼玉県横瀬町）

『官民連携「よこらぼ」により「チャレンジ」を核に消滅可能性都市の未来を変える』

### ○取り組み概要とポイント

#### （1）取り組みのきっかけ

- ・埼玉県の西部、秩父地方にある人口7,700人の横瀬町は、豊かな自然環境、しっかりした地域コミュニティ、それでいて都心から程よい距離感の3つの好条件が揃っているが、人口減少が止まらない。この町の未来を変えるため「チャレンジする町」を掲げた。

#### （2）官民連携プラットフォーム「よこらぼ」とは

- ・民間のチャレンジを町が応援する（様々なプロジェクトを誘致する）仕組みとして官民連携プラットフォーム「よこらぼ」を2016年9月末に立ち上げた。
- ・7年の運用で民間企業、研究機関、個人等多様な先から234件の提案があり、うち137件を採択。
- ・137件のうち町の予算を投じたプロジェクトは、小児科医がオンライン相談に応じる「小児科オンライン」などわずか5件のみ。財政負担を伴わないプロジェクトが大半であることも「よこらぼ」の大きな特徴。

#### （3）効果

##### ①町の知名度とブランド力の向上

- ・日本一チャレンジする町、日本一チャレンジを応援する町としてメディア露出は年々増加し、令和4年度は650回以上。町の地方創生の取り組みが評価され、令和4年度ふるさとづくり大賞優秀賞（総務大臣表彰）を受賞。

##### ②東京圏を中心にヒトモノカネ情報が低コストで継続流入、関係人口も拡大

- ・「日本一チャレンジする町」に引き寄せられる形で、人材流入が加速。地域おこし協力隊、地域活性化起業人、企業版ふるさと納税、ふるさと納税も増加。

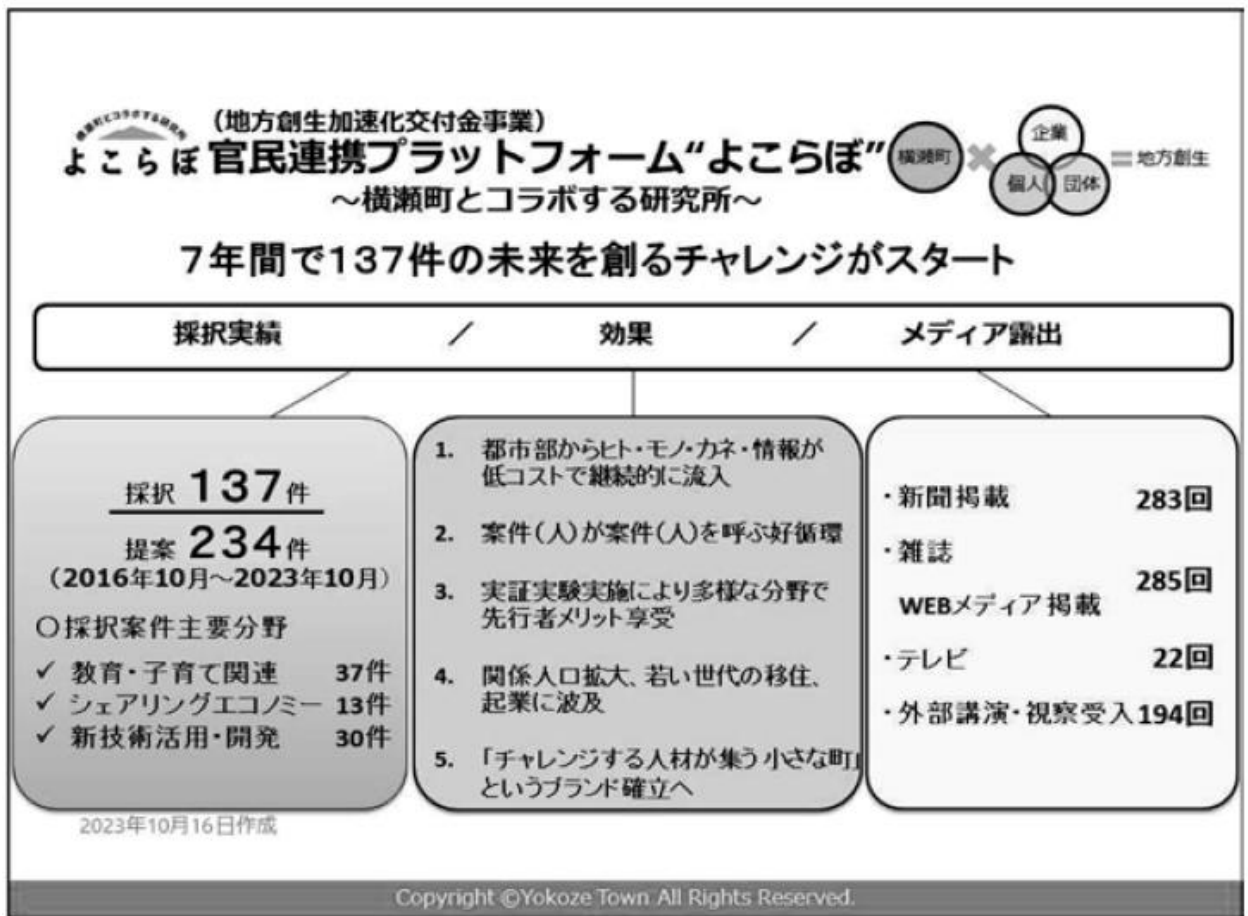
##### ③場づくり、中心地づくりが進捗

- ・町の若者らが中心となって、民間の空きスペースを活用したコミュニティスペースをDIYで整備し、「Area898」が2019年4月に誕生。ここを中心に官民連携により、空きスペースをリノベーションして、LAC横瀬、たてらぼ、Area899などが次々とオープンし、中心地づくりが急速に進展。何もなかった町に賑わいが生まれ始めた。

##### ④チャレンジが町のカラーになり人口減少の抑制、合計特殊出生率の好転へ

- ・地元の中高年による遊休田を使った町の新名物「どぶろく花咲山」の開発「どぶろく特区プロジェクト」を皮切りに、地元住民からのチャレンジも多数存在する。町内でチャレンジが連鎖し、人口減少の抑制、合計特殊出生率の好転などの傾向も出てきているが「消滅可能性都市の未来を変える」はとても難易度の高い目標。チャレンジを核にしたまちづくりにより、町の未来は着実に変わり始

めている。



### ■ 3. 寄居町議会（埼玉県寄居町）

『町村議会広報コンクール日本一の「議会だより」を強力なツールとし、

住民自治への意識改革を推進「脱・無投票」への4年間の挑戦』

○取り組み概要とポイント

(1) 概要

・4年前(2019)の町議会議員選挙は町政施行以来初めての「無投票」。有権者の審判を受けずに当選が決まったという現実を初めて経験。議員の「なり手不足」を言い訳にせず、「議会だより」というツールを活かした積極的なアプローチで「脱・無投票」を達成。(↓全て表紙)



## (2) ポイント

### ①議会だよりで、次世代への呼びかけ

・「無投票でいいんですか？」をテーマとした93号からは、「18歳選挙権」を意識し、小学生・中学生を対象とした「もうすぐ選挙権」コーナーを設け、学校やご家庭へ出向いた取材はこの4年間で40回107人。さらに40代までを合わせると133回221人の若者世代の声を広聴し掲載。

### ②議会だよりは、住民自治の窓口

・取材は平均年齢65.8歳の議員で敢行。若い世代への取材先も議員自らが探した。3点セット（顔写真・名前・コメント）の了解まで得るには断られることも多々あり苦勞した。年間16回発行される議会だよりの編集の度に編集委員だけでなく議会全体で取り組むこともあり、この実践が自ずと議員力アップに繋がった。またその声を提言の中にも反映させた。

・多くの町民登場がなされたことで「やっと自分の所に来たか」「自分も意見を言いたい」との声もあり、議会だよりが世代に依らず「住民自治の窓口」であるとの互いの認識も深まった。

### ③議会だよりで強力推進！「脱・無投票」

・定数（16）報酬（23万2千円）について、4年間、検討してきた流れと一緒に議会として「変更なし」の結論に至るまでを報告。（104号「議論」）選挙直前号では全ページを通して立候補のための具体的な情報を掲載。

## (3) 効果

・令和5年度寄居町議会議員選挙は20代2人、40代2人を含む新人5人が立候補、定数16に対して現職、元職あわせ21人の立候補という激戦に。結果、現職11名と20代1名を含む新人5名が当選。20代の当選は実に40年ぶり。

・議会だより109号最新号では、投票率が50%を切った今回の結果を踏まえ、早速、新人議員を含めた議員全員で10代から80代まで266人を総力取材。「4年後の一票」に向けたスタートをきった。

・109号最新号のねらい：外側くるみオモテ面には最年少と最年長の議員の顔でインパクトを。外側くるみウラ面には16人の議員全員のマニフェストを掲載。二次元コードで議員の動画を貼り（、動く話す）議員の見える化で、議員個人も知ってもらう。

・エヴァンゲリオン風の表紙にはアンケートの自由記載欄の町民のリアルな声を掲載。266人アンケート結果をHPに貼り、町民と課題を共有。11月に予定している議会報告会・意見交換会で対話のテーマとしていく。

特選 寄居町議会議員選挙2023 選挙のリアル

「サラリーマンをやめてまで、町議会議員にはなれない」  
お元気でですか 寄居議会です 第三十九号

若い世代に期待したいけど、  
23万2000円では無理  
無投票回避  
見えない投票率は  
49.6%  
投票は義務ではないけど、  
期待していません  
「プロ議員」より「リアル」

Yorii Town Councillor

2023-2027 Manifesto

「選挙」は自分自身の  
貴重な経験値。落ちても  
無駄にはならない。  
そう思って挑戦しました。

1期4年「見せましょう」チーム議会の底力



#### ■ 4. 清川村議会議員 小林大介（神奈川県清川村）

『パブリックコメントに参画する会』

##### ○取り組み概要とポイント

###### (1) 概要

・パブリックコメントは発信力の弱さや内容の難しさもあって、住民の関心は低く、これまで実施されたものでは、0から数件の意見しか集まっていなかった。そこで、今回パブリックコメントの募集に合わせて、誰でも参加できるオープンな勉強会を実施し、参加者みんなて意見を提出することにした。

・最初は、教育大綱について、「パブリックコメントの目的や手法」「教育大綱の目的」「他自治体の例を基にした教育大綱の類型化」「清川村教育大綱案の内容」について1時間程度で共有し、その後参加者による意見交換を実施。その場で集まった意見を整理し、参加者で構成した団体名で60件以上の意見を提出。

###### (2) ポイント

・パブリックコメントは住民にとって、とてもハードルが高く、パブリックコメントで提案される内容も住民にとって馴染みの薄いものが多く理解が難しい。また、人が作ったものに意見することも多くの人にとって心理的抵抗がある。その為、まずは勉強会で基礎知識をもち、個人ではなく集団で取り組むことで心理的ハードルを下げた。

・論点や情報が見える化して住民に伝えることが、議員の重要な仕事の一つであり、自分の自治体の教育大綱だけを見ても論点は浮かび上がりにくいのが、他自治体のものと比較してみると、その違いから多くの論点が見えてきた。論点や情報を提示していくことによって初めて、ただ住民の声を“聞く”のではなく、「どう思いますか？」と“訊く”ことができた。

・事後のフォローをしっかりとっていくことが、参画者である住民たちのエンパワーメントに繋がる。「どうせ意見しても変わらない」「意見を言っても応答がない」といった失望の声がよく聞かれるが、そこには行政や議会が住民の声を“聞く”と言っても、あくまで参考意見として扱い、後の議論は内部で進めてしまうため、結局住民の声がどう生かされ（また却下され）たのかが分からないということがある。そこで、その後の議論の経過を追ったり、一般質問等で議論のあり方について取り上げていったりしたものを、広報紙やタウンミーティングの場で住民に伝えていくことで、住民が意見した後も引き続き意識してもらえるように努めている。

#### ■ 5. 塩尻市総務部税務課（長野県塩尻市）

『職員手作りの多彩な税務広報で、開かれた塩尻市へ』

##### ○取り組み概要とポイント

###### (1) 概要

・税金についてもっと知ってもらうため、組織内の対話から生まれるアイデアを生かし、さまざまな税務広報に取り組んだ。

・RPA導入や業務効率化などにより業務時間を削減し、時間を確保。残業することなく勤務時間内に職員手作りで制作し、申告率や収納率の向上など、地方自治法第2条「最小の経費で最大の効果」と言える成果も出た。

## (2) ポイント

### ①YouTube 動画の公開

・「コロナが怖いから、自宅で申告書を書く方法を教えて」などの市民の声に応え、住民税の申告方法の動画のほか、子ども向けの税金解説の動画、若者向けの税金解説の動画など計 17 本を制作し、ホームページ上で公開した。

### ②小学生向けポータルサイトの公開

・コロナ禍に迅速に対応し、休校中の自宅でも学べるよう、小学生向けの税金ポータルサイトを制作。学校の備品等の値段も掲載し、子どもでも税金の用途が分かりやすい内容とした。クイズや固定資産税のシミュレーションコーナーなども掲載するなど、学習のきっかけとなる入口を多く用意。自分の興味がある分野から学べるサイトとなった。

### ③子ども向け冊子の制作

・手に取りやすい A5 サイズで、ページ数が少なく読みやすいイラスト主体の冊子を制作し、令和 4 年度から市内すべての小学 6 年生（約 530 人）に配布。毎年募集している税の標語の応募率は前年比 +14.1%となった。

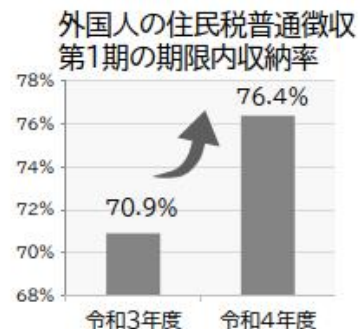
### ④外国人向け四コママンガの制作

・外国人にも親しみやすい四コママンガ（英語、ポルトガル語）を制作し、令和 4 年度の住民税納税通知書に同封。直後の収納率は前年比 +5.5%となった。

## 外国人向け四コママンガの制作



外国人が帰国してしまうと税金の徴収が困難で、全国共通の課題。そこで、令和4年度の個人住民税の納税通知書に、初めて外国人向けの四コママンガ（英語、ポルトガル語）を職員が手作りし、同封。住民税の使い道だけではなく、税額計算は前年の所得に基づく点、コンビニでも納められる点なども伝わるよう工夫。直後の収納率は前年度より増加。



### ⑤アニメーション図解の公開

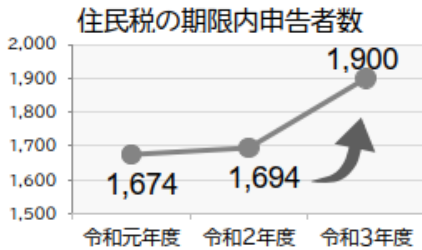
・ベストセラー「ビジネスモデル 2.0 図鑑 (KADOKAWA)」にヒントを得て、アニメーション画像「うごく図解」を 11 種類制作し、ホームページ上で公開。

### ⑥チラシへの行動経済学の活用

- ・行動経済学（ナッジ理論）を活用し、納税通知書の同封チラシを改善。令和3年度の住民税の申告者数は前年比+12.2%、令和5年度の口座振替申込率は前年比+33.8%となった。県内の自治体が本市と同じチラシを送付したところ、住民税の無申告者が前年比25%減少。他自治体でもすぐに使えるEBPMの好事例となった。

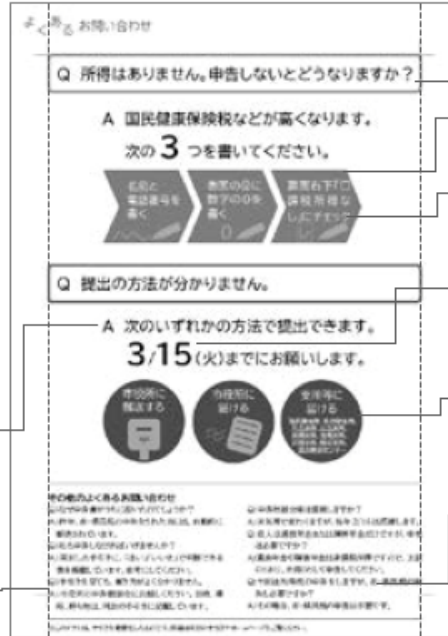
## 行動経済学を活用し、住民税申告者が増加

納税通知書に同封するチラシに行動経済学を活用し、申告者が増加。



文字はユニバーサルデザインフォントで統一。ジャンプ率でメリハリ

グリッドでレイアウトを整え読みやすく



人は自分の不利益に敏感(損失回避)

読みやすい暖色と寒色の使い分け

一目で分かる図形

数字を大きく強調し、タイムプレッシャー

左側に金銭負担がある表現→右側で緩和(アンカリング効果)

読みやすいよう、色は3色に抑える

### ⑥ SNS で定期的に発信

- ・若者向けに、エックス（旧ツイッター）で税金に関する内容を定期的に発信。スピード感を重視し、吟味した短文と写真で最大限の表現をするなど、現代の SNS 社会に相応しい発信を心がけている。

### ⑦ 小学生向けボードゲームで参加型広報

- ・税金について学べるボードゲームを制作し、夏休みイベントで使用した。市内の小学6年生24人が参加。ゲームの要素を他の物事に応用する「ゲーミフィケーション」を取り入れることで、子どもたちの関心を高めた。メディアではなくイベントを通して周知する「参加型広報」の成功例となった。

## ■■グッドアイデア賞 優秀賞■■

### ■ 1. 特定非営利活動法人みんなのコード（東京都港区）

『学校現場の実践に基づく「生成 AI ガイドライン策定への提言」で議論を活性化』

#### ○ 取り組み概要とポイント

##### (1) 概要

- ・みんなのコードは、「誰もがテクノロジーを創造的に楽しむ国にする」をビジョンに掲げ、2015年の団体設立以来、小中高でのプログラミング教育等を中心に、情報教育の発展に向け活動してきた。
- ・2023年に入り、ChatGPTなどの生成 AI ツールに対する社会的な注目の高まりを受けて、みんなのコードは、学校現場での適切な利用に向けてルールの整備が必要だと感じていた。
- ・4月初旬には、文部科学省でも生成 AI の取り扱いについて、学校現場が主体的に判断する際に参考

となるガイドラインを作成することが予告されたため、本質的な議論のきっかけを創出できるよう、4月20日に「生成AIの初等中等教育でのガイドライン策定に向けた提言」を発表。

・「生成AIの初等中等教育でのガイドライン策定に向けた提言」は、みんなのコードがこれまで関係してきた様々な学校現場での実践に基づいた気づきを起点にまとめたもの。

## (2) ポイント

・授業実践を踏まえて、考慮すべき観点を以下の3つにまとめた。

①AIを「人間が高度な知的生産をするためのもの」と認識する

②コンピュータと適切に対話する力も重視する

③思考力・判断力・表現力等に及ぼす影響についても議論する

## 2. 明日に希望を灯す動画作成委員会 (東京都港区)

『生活復帰・就労継続できる。成功体験を地域医療と社会で活かす取り組み』

### ○取り組み概要とポイント

#### (1) 概要

・高次脳機能障害とは、脳卒中や事故により、脳に障害を負うことで発症し、性格が変わり、感情的な言動が目立つ、無気力になる、などの感情面に加え、四肢にマヒが残り生活が制限される身体面の二面を併せ持つ。その為、社会復帰がすすまず、収入が減り、人間関係の悪化が重なると、当事者も家族も不安定な状態が続く。この閉塞と停滞の状態からの脱却は難しく、人生が立ち止まったままになってしまう。

・定着率50%未満とはいえ、社会復帰し、就労継続できている当事者も存在する。彼らの経験した社会復帰までの過程や困難は、個々の医療現場には届かず、表に出てくるのが少ない。

・「明日に希望を灯す動画作成委員会」は、就労復帰し、継続を続けている当事者や家族の声を、成功事例として医療現場や就労訓練現場にアーカイブで届けて、社会復帰に向けてのリカバリー精神の醸成につなげていただける映像ツールとして公開していくことを提案。

#### (2) ポイント

①当事者が経験した過程を、急性期、回復期、生活期の場面に区切り、キーワードを集めてアプローチシートを作成。

②医療関係者が原稿内容を確認し、医療相談にて広く共有されることを前提に言葉や表現に医学考証を加える。

③当事者自らが体験を語る動画を収録し、支援者とともに編集作業を行う。

④実際の医療機関に本活動について紹介を行い、医療相談の現場や就労訓練の場での活用を依頼している。

## ■ 3. 渋谷区議会議員 鈴木けんぼう (東京都渋谷区)

『体験できる「再開発後」～住民目線でのまちづくり検討をVRで実現～』

### ○取り組み概要とポイント

#### (1) 概要

・再開発案件の検討にあたりVR空間上に近似モデルを作成し、再開発後を体験できるようにした。

・従来は高価なソフトが必須なため住民は業者提供のイラスト資料等を基に検討するしかなかった



が、[国土交通省の3D都市モデルPLATEAU（プラトー）](#)、[無料ソフトの3DCGアニメーションを制作するためのツールBlender（ブレンダー）](#)や[ゲームエンジンUnity（ユニティ）](#)、[無料のソーシャルVR（VRSNS）](#) [3DCGを用いた仮想空間で、アバターを介したコミュニケーションがとれるソーシャルネットワークサービス] を活用して様々な場所・高さから新旧を自由に比較し影響を検討できるVRワールドを作成。住民目線かつ現実に即した街づくり検討の場を安価に実現した。

#### (2) 具体的な取り組み手順

- ・国土交通省が公開している無償の3D都市データモデルPLATEAUから建物データと道路/隆起データを無料モデリングソフトBlenderに取り込み3Dモデル化する（以下旧モデル）。
- ・公開資料から計画されている建築物の大まかな寸法を割り出し、Blender上で作成し旧モデルと結合。新しい街並みを3Dモデル化する（以下新モデル）。
- ・旧モデルと新モデルを無料ソフトのUnityにて統合。テクスチャを張り付けて街並みの雰囲気を実現するほか、新旧モデルの切り替えボタン、新旧モデルの屋上に移動できるボタンなどを設置する。
- ・統合モデルをVRSNSの[Cluster](#)にて公開、自由に体験できるようにする。

#### (3) ポイント

- ・図面やイラストなどの業者提供情報だけでは読み取れない周囲へのインパクトを体感できる。
- ・地点や角度を自由に設定できる。アバターを切り替えれば子どもや大人や鳥の視点で体験できる。
- ・ボタン一つで新旧モデルを切り替えられ、簡単に比較することができる。
- ・先行事例は机上にARや紙工作でモデルを作成したり、実際の場所にARで表現したりするものがあるが、視点の切り替えや新旧比較は考慮されていなかった。
- ・国土交通省の無償提供データを活用することで高品質かつ短時間で作成できる。利用ソフト等も無償のものであり、費用負担も少ない。

### ■ 4. 医療法人社団しろひげファミリー（東京都江戸川区）

『在宅診療所・行政・関係職種が連携し包括的なひきこもり対策を提供』

#### ○取り組み概要とポイント

##### (1) 概要

- ・江戸川区で在宅医療を展開するしろひげ在宅診療所でも、年間1700名を超える患者様のうち、約2割の方が重度精神疾患を抱えており、長期ひきこもりも増加傾向にある。それらの課題を解決すべく、江戸川区と連携し就労支援や居場所づくりなどの対策を幅広く手掛けている。
- ・2022年12月には社会貢献事業の活動拠点として『みんながつながる。しろひげ・べーす』を開設。「地域交流スペース」「医療・福祉の相談窓口」「駄菓子販売コーナー」を設け、医療と地域が連携した居場所づくりを手掛けている。
- ・ひきこもり当事者や医療・介護に悩みを持つ方だけでなく、地域の一般住民の方々にも開放。居場所を利用するひきこもり当事者の方と駄菓子屋にお菓子を買いに来た子ども達が交流をするなど、多様な背景を持つ人々が入り混じり、互いの個性を尊重しながらネットワークを紡いでいる。さらに、スタッフにはひきこもり経験者やろう者などがおり、自らの経験を活かして利用者の方々に寄り添ったサポートを提供。
- ・医療機関が地域のひきこもり対策を手掛ける事例は全国でも珍しく、マスコミ各社に取り上げられ

ている。

## (2) ポイント

- ・2023年1月には、しろひげ在宅診療所の関連会社である(株)ホワイトビードが江戸川区からの委託を受け、しろひげ・ベースの一部を活用し日本初となる区営の駄菓子屋居場所「よりみち屋」の運営を開始。
- ・よりみち屋ではしろひげ・ベースの機能であった「駄菓子屋」と「地域交流スペース」を引継ぎ、継続して地域の人々が集まる場所として活用されている。
- ・よりみち屋では区内に在住のひきこもり当事者を対象に、週に1日・1回15分からの就労体験も実施。就労体験では最低賃金を支払ったうえで、駄菓子屋での接客や仕入れといった業務を担当させている。
- ・ほかにも、ハンドメイドやプログラミングといった特技を持つ利用者を講師としてワークショップを実施するなど活動を展開。障害の有無やその人が置かれている環境に関わらず、各々の個性を活かすことができる環境を整備。

## ■ 5. 川崎市総務企画局都市政策部 SDGs・国際連携推進担当 (神奈川県川崎市)

『国内自治体初! 「川崎×SDGs×庁内マネジメント」の独自計画の策定と成果

### ○ 取り組み概要とポイント

#### (1) 概要

- ・2023年8月に策定・運用開始した『Kawasaki City SDGs Guidance ~川崎市庁内SDGs取組の進め方~』は、SDGsを「コンパス、共通言語、エンジン」と定義付け、庁内マネジメント用にローカライズした独自計画。
- ・庁内事業をSDGs視点で「シティプロモーション」「インナープロモーション」「事業連携・改善」する手段や庁内事例等をわかりやすく示したもの。
- ・全庁を巻き込んで内側から変えていく手法として、本『進め方』を考案し、4月末には市長レク、5月には市長・副市長・全局区長出席の会議で方向性を確認し、そして新部署発足から4か月(8月)で策定・公表に至った。

#### (2) ポイント

- ・内容企画、庁内調整(20部署以上)、市長等の上層部への働きかけ、そして策定までの合意形成を部署新設からわずか4か月の間に進めた。ゼロ予算であり、内容・デザイン・イラスト含め委託費ゼロの完全自作事業。
- ・本『進め方』は、SDGsを「コンパス、共通言語、エンジン」として定義付けた根拠や理論構築など、文献調査や有識者相談などエビデンスを意識して作り込んだほか、デザイン・見た目・デザイン、用語、色づかいなど様々な点で工夫を凝らし、多くの職員に目を引くものに仕上げた。
- ・「作って終わり」になりやすいが、それを防ぐため、本『進め方』の製作作業と同時並行で運用調整を行い、策定時には20以上の成果に繋げており、さらに市総合計画と連動して進行管理するため実現性・発展性が高い計画となっている。
- ・本『進め方』のようにSDGsをローカライズし庁内マネジメントに特化した独自計画を策定した自治体はおらず、国内自治体初の試みである。

## ■成果賞優秀賞■

### ■1. 障害×提案 = もうちょい住みよいつくば（茨城県つくば市）

『障害がある私達のアイデアを〈要望から提案〉にまとめて自治体と協働する。』

#### ○取り組み概要とポイント

##### ①障害当事者の知恵袋を政策提案へ

“障害福祉の分野も、都市計画と同様に、計画的に改善に取り組んでいく。”“障害がある人たちのアイデアを活かす。”“「改善の要望」ではなく、「解決策の提案」としてまとめ、市政と協働して障害がある人が主体的に課題解決に関わる。”の3つのコンセプト取り組んでいる。

##### ②アイデアから生まれた提案

・つくば市に6つの提案を行い、4つが事業化された。

##### ③参加者の声を聞き合う仕掛け

・話し合いの際には、必ずファシリテーターに参加してもらい、グループワークの進行、議論の見える化。

##### ④既存の事業を調整して、効果を上げる

・例として「福祉タクシー券を他制度との選択制とし、社会参加を促進する。」という提案内容では、福祉タクシー券は、障害者を対象としたタクシー料金補助事業だったが、事業対象者である電動車椅子利用者は、タクシーに電動車椅子が収納できないことから実質的に対象外であり、電車・バスも含めた補助制度にすることで対象外の者もカバーするよう、提案をまとめた。

##### ⑤投票をして、その後をウォッチする

・6つの提案を2020年の市長選挙・市議会議員選挙で立候補者への公開質問とし、回答を市民へWeb等で周知し、選挙後には、当選議員も含めて各担当課と協議し、事業内容を練り上げた。

##### ⑥ゆるく、しなやかな強さを作り出す

・この取り組みは、障害種別を越えて話し合い、それぞれの「障害」について理解し、ゆるく安心したつながりを作り出した。それによって、障害がある人が「福祉」の受け手としてだけでなく、課題解決していく主体になることができた。

### ■2. 横須賀市経営企画部デジタル・ガバメント推進室（神奈川県横須賀市）

『自治体初 ChatGPT の全庁的な活用について

～最新のテクノロジーに積極的にトライして、知見を共有していく～』

#### ○取り組み概要とポイント

##### （1）背景

・試算では、人口減少により20年後には職員が現在の4分の3、その先は2分の1まで減少することが予想されているが、行政課題は減少しないことから、業務の効率化が求められている。ChatGPTの導入はその一環であり、業務効率化が期待されている。

・横須賀市役所は、2023年4月20日からAIツール「ChatGPT」の全庁的な活用を開始。

→一ヶ月間の実証期間によって評価された導入効果の高さがあり、6月5日から本格導入。

・セキュリティへの懸念があったが、OpenAI社の規約改定により解消された為、導入の契機となった。

・「ChatGPT活用検討チーム」を設立して取り組んだ。

## (2) 概要

- ・自治体職員専用チャットツール「LoGo チャット」を用いることとし、一元化された入口からの利用を通じて、シャドー IT の排除と広範な導入を実現。
- ・個人情報保護の観点から、住民基本台帳・税などの情報を AI に学習させることはしない。
- ・2023 年 4 月 20 日からは、全職員約 3,800 人が利用できる環境で、ChatGPT の活用がスタート。
- ・特に重要なのが「質問能力の向上」であり、そのための研修会を開催するとともに、使い方、注意事項、ミニ問題などを掲載した庁内報（チャット GPT 通信）を定期的に発行し、継続的な利用促進や、スキルアップを図っている。
- ・「他自治体向け問い合わせ対応ボット」をリリースし、80 以上の自治体から寄せられる ChatGPT に関する問い合わせに対応できるようになった。この対応ボットは、横須賀市の ChatGPT データと他自治体からの問い合わせデータを融合し、多岐にわたる問い合わせに回答でき、他自治体とスムーズに情報共有を行い、職員の対応時間を削減し業務負担を軽減することを目指している。
- ・「自治体 AI 活用マガジン」という横須賀市と note 株式会社が共同で運営するポータルサイトを開設し、横須賀市を含む 11 の AI 先進自治体が参画し、全国の自治体向けに AI 導入に関する情報や成功事例を発信。

## 自治体 AI 活用マガジン

生成 AI 活用の知見まとめサイト

ピックアップ記事



月2000万文字！数字で見る横須賀市のChatGPT利用状況  
♡ 62



「文章生成AI活用ガイドライン」策定！文章生成AIで都庁の仕事を変える挑戦へ



「自治体におけるChatGPT等の生成AI活用ガイド」の説明動画を公表  
♡ 16

## ■ 3. 図書館フレンズいまり（佐賀県伊万里市）

『約 10 年にわたる市民運動で生んだ市民の図書館を、大切に育てる』

### ○取り組み概要とポイント

#### (1) 背景

- ・こんな図書館しかないところでは、子育てできない。  
→幼稚園児や小学生をもつお母さんたちの小さな思いから始まった「図書館づくりをすすめる会」の市民運動により、各地図書館を見学し、読書席がほとんど無い貸出中心の図書館に何となく違和感をもっていった中、言葉を失うほど感動する図書館に出会った。

#### (2) 概要

- ・建設中にも、ヘルメット着用の中間見学会など、お題目ではない「本物の市民参加」を実行。
- ・開館後、「図書館づくりをすすめる会」は、友の会「図書館フレンズいまり」へ名称変更し、「協力と提言」として、できる限りの側面的な支援はするが、体の良いお手伝いさんなり下がらず、分たちの意思を明確に持っていくこととし、5つの委員会を設置し活動中。



・会員資格は千円の年会費と「市民図書館を愛する人」で、完全なボランティア。活動に必要な資金は自分たちで「稼ぐ」こととし、古本市や自販機、設計者が作成した図書館案内冊子や会員の手作りマスクなどのグッズ等の益金で賄っている。

・各委員会の活動内容

委員会名	活動内容
イベント	図書館の開館記念日を毎年祝う「図書館ほしまつり」への全面協力（フレンズ主催の俳句まつり）、起工の日を記念する「めばえの日ぜんざい会」、古本市などの企画
美化	公開書庫の整理、花苗手入れ、和室障子張り替え等
フレンズコーナー	図書館に関する資料・古本・会員手作りグッズの販売
広報	会報（いすの木）発行
インフォメーション	視察者への対応、講演会・学習会等の企画

・ボランティアグループの活動内容

おはなしキャラバン	館内おはなし会や、自動車図書館巡回先の保育園等でおはなしを届ける
てんとうむしの家	布の絵本やタペストリーを作製し、おはなし会等で活用
対面朗読 草ひばり	目の不自由な方や高齢者・子どもへの対面朗読を行う
いすの木合唱団	懐かしい文部省唱歌など美しい言葉の歌を歌い継ぎ、図書館のイベントに花を添える

#### ■ 4. 都城市デジタル統括課（宮崎県都城市）

『破竹のダウンロード数！マイナンバーカードで実現するふるさと納税 DX』

○取り組み概要とポイント

（1）概要

・都城市は全国トップクラスのふるさと納税の寄付額（R4：196億円）及びマイナンバーカードの保有率（R5年7月末：88%）を誇っている。

・寄付者の利便性向上と行政効率化を両立するため、ふるさと納税関連業務を委託するシフトプラス（株）等と官民共創で、ワンストップ特例のデジタル化を実現する公的個人認証アプリ「IAM」を開発した。

（2）ポイント

・申請状況が確認できるように、初回に申請サイトでメールアドレス等の登録をすれば、申請サイト

で本人認証のための入力を行った後は、アプリでは暗証番号を2個入力して、マイナンバーカードをかざす等により、申請が簡易に終わるようになっており、コストを大きく削減することが可能となった。

- ・結果として、半年で、自治体アプリとしては驚異の130万超ダウンロード、300超の自治体への横展開を記録する大ヒットを実現した。
- ・寄付の50%超で利用と、目標の1.5倍以上の利用率となっており、マイナンバーカードの普及促進にも寄与しており、本アプリのためにカードを取得したとの声も少なくない。
- ・第2回日本DX大賞行政機関部門において、最優秀賞である大賞を獲得。

## 申請アプリIAMでの ワンストップ特例申請の手順

### STEP 1 申請アプリ「IAM」をダウンロードする

### STEP 2 申請書・マイナンバーカードを準備する

申請書はご寄付後に郵送いたします。

※住所などの変更がある場合は、正しい情報に変更をお願いします。



#### お手元に申請書が届いていない方

お急ぎの方は、右記QRコードのリンク先のサイト「ふるまど」にて、申請書のダウンロードができます。

※寄附の直後はまだダウンロードできません。  
翌営業日の午後以降をお願いします。



都城市 ふるまど

### STEP 3 申請書の QR をスキャン

申請書のQRコードをスマートフォンで読み取り  
サイトへアクセスする。

※住所などの変更がある場合は、正しい情報に変更をお願いします。



### STEP 4 アプリで簡単に個人認証

マイナンバーカード作成時にご自身で設定した暗証番号2種類(※)を入力。マイナンバーカードをかざし完了ボタンを押して完了!

※券面事項入力補助暗証番号(数字4桁)と、  
署名用電子証明書暗証番号(英大文字・数字6~16桁)です。



**※申請書の送付は「不要」です。**

## ■ 5. 大崎町（鹿児島県大崎町）

『リサイクルの町から世界の未来をつくる町へ』

### ○ 取り組み概要とポイント

#### ① 環境政策

- ・大崎町のリサイクルシステムとは、焼却炉に頼らない低コストで資源循環型の廃棄物処理システム。
- ・埋立処分場における残余年数の逼迫をきっかけに、平成 12 年から細かな分別によるごみ減量化で処分場の延命化を図るという道を選択。
- ・住民・企業・行政の協働で、埋立ごみは平成 10 年当初に比べて約 84% を削減。
- ・分別されたごみは、最終的に資源として再生されるもの、完熟堆肥となって農作物に生まれ変わるもの、販売後、町の収入となり施策の財源となるものなど、多様な形で循環している。
- ・廃棄物対策が喫緊の課題となっているインドネシア国・バリ州等に対しては国際協力機構（JICA）事業を通じて継続的に技術支援を行い、ジャカルタでは公設のリサイクルセンターが設置された。

#### ② 施策の展開

- ・最優先とする課題は人口減少対策に対して、令和 3 年 4 月、大崎町のほか民間の金融、教育及び報道機関等を含む 5 団体（現在は 6 団体）で、一般社団法人大崎町 SDGs 推進協議会を設立した。
- ・設立の目的は、大崎町から世界の未来モデルとなる持続可能な循環型社会、いわゆるサーキュラーヴィレッジを構築することである。これは大崎町における人、資源、経済が流出せずに、環を描く道筋の中で多様に状態が変化し巡っていく、持続可能なまちづくりをめざすこと。

#### ③ 協議会の運営と財政

- ・協議会のスタッフは本町への移住者である企業社員 7 名。
- ・プロジェクトに係る原資は全て企業版ふるさと納税で、寄附された金額の 80% が活動資金。
- ・活動内容は次の通り。

ア 持続可能な社会システムの開発事業（大学・企業との研究開発・地域になかった新しごとの創出）

イ 視察研修ビジネス事業（体験型宿泊施設を拠点に世界から「学び」に来るまちづくり）

ウ SDGs 教育の実践（SDGs を通じた教材開発と人材育成）

#### ④ 事業の持続可能性

- ・事業が持続可能なためには財源確保が欠かせない。財源は協議会が SDGs 活動に賛同する企業等に働きかけ、企業版ふるさと納税の獲得を行う。
- ・地域住民や関係機関に事業で得られた知見、価値、成果を住民参加型イベント及び広報を通じて随時提供し、信頼関係の構築に努めている。

### 【所感】

□ 三宅 靖

- ・一関市議会をはじめ、複数の議会で議会だよりの一新を実施していた。やはしり、議会からの情報発信の基本は議会だよりにあるが、紙面は少なくして詳しくはホームページに掲載して、そちらに誘導するという手法が主流になりつつある。その為には、議会ホームページの充

実は必須事項であると感じた。

・福島県の一般質問一覧HPは、一議員が作成しているが、インターン学生にも手伝ってもらったとの事だが、個人で制作したエネルギーが凄い。県全体とは言わなくても、北上市議会だけでもマネしたい仕組みである。

・寄居町議会だよりによる、議員の成り手不足の取組は素晴らしい。特に、町民への取材を掲載するというアイデアは、当市でも是非取り入れたい。改選後の広報委員会または議会改革推進会議では視察にいくべき議会である。